

筑波大学大学院人間総合科学学術院 人間総合科学研究群

リハビリテーション科学 学位プログラム 博士前期課程

令和4年度入学試験

論述試験問題

[注意]

1. 問題は、問題1と問題2の2問です。  
問題1は、(1)、(2)の2つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。  
問題2は、(1)と(2)の2つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。
2. 答案用紙は600字詰め4枚、下書き用紙は4枚あります。  
答案は、設問ごとに答案用紙1枚にまとめて記載してください。  
答案用紙の裏面は使用しないでください。  
下書き用紙は、自由にお使い下さい。
3. すべての答案用紙に必ず受験番号を記入してください。
4. 各答案用紙の欄外の左上に、問題番号[問題1(1)、問題1(2)、問題2(1)、問題2(2)]を明記してください。
5. 試験終了後、問題用紙と下書き用紙も回収しますので、持ち帰らないでください。

## 問題 1

下の表 1、表 2 は、平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査において、リハビリテーションの効果に関する認識を本人と支援者で比較したものである。

- (1) 表 1 及び表 2 から読み取れることを 400 字程度で述べなさい。
- (2) (1) で読み取った内容に基づき、あなたの専門性を踏まえたリハビリテーションの効果に対する認識差について、今後の研究課題を 400 字程度で述べなさい。

表 1 リハビリテーション効果に対する認識（本人の認識）

(%)	よくなる	現状が維持できる	悪化する	無回答
身体機能	52.1	45.2	0.7	2.0
日常生活動作	50.5	46.8	0.6	2.1
社会的活動	32.6	59.8	4.2	3.4

表 2 リハビリテーション効果に対する認識（リハビリ専門家の認識）

(%)	向上する	維持する	低下する	無回答
心身機能	21.2	74.5	3.5	0.8
ADL/IADL <sup>(注)</sup>	16.1	79.4	3.6	0.9
社会適応能力	8.6	86.6	3.9	0.9

厚生労働省平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成 26 年度調査）「リハビリテーションにおける医療の介護の連携に係る調査研究事業」報告書をもとに作成

注：ADL：日常生活動作

IADL：手段的日常生活動作（買い物や洗濯などより複雑で高次の動作をさす）

## 問題 2

別添の文章（4頁～7頁）は、國分功一郎著『中動態の世界—意志と責任の考古学』（医学書院，2017年）を抜粋、改変したものである。この文章を読んで、以下の（1）と（2）の設問に答えなさい。

- （1） この文章の要旨を 400 字程度で述べなさい。
- （2） あなたが関わっている仕事あるいは研究を通して、筆者の述べていることについて、特に「リハビリテーション」の観点から 400 字程度で論じなさい。

著作物にあたるため、この部分は公開できません。